

特 集

マニラ日本人会同好会～ご紹介～ ブリッジ同好会

マニラ日本人会には、駐在員のご家族も一緒に楽しめる各種同好会が存在します。“どんな活動をしているか気になっていた”、“初心者でもできるのだろうか”・・・そんな方も多数おられるのではないのでしょうか？

まぶはいでは、各同好会の活動を大公開！記事を読んで興味を持たれた方は、実際に活動を覗いてみてはいかがでしょうか？「自分にもこんな才能が・・・」と、新たな発見があるかもしれません。



同好会紹介企画4回目は、ブリッジ同好会です。カード・ゲームの中でも唯一国際共通ルールが確立しており、社交性の高いゲームとして、広く世界で楽しまれているゲームです。取材した編集委員Wは「ブリッジ」という名称は知ってはいたものの、全くその内容は知らず、今回、初めてゲームの様子を拝見した次第です。その奥深さの一端でもご紹介出来れば幸いです。



※本記事は2023年5月現在の情報です

1. ゲームの準備と進め方

《テーブルを囲んで2対2の攻防》

今回、日本人会 CLUB ROOM をある水曜日の午前中にお伺いし、ゲームに興じる（？）というか、真剣に取り組む4人、池澤さん、鈴木さん、フェラリーニさん、三田さんに、ゲームの様子を拝見しながら、お話をお伺いいたしました。（同好会では、4人以上の場合は、交替でゲームを楽しみます。もちろん、メンバーは現在4名以上いらっしゃいます。）

North East West South (NEWS) に正方形のテーブルを4人で囲みます。まるで麻雀のようですが、麻雀のような個人戦ではなく、向かい合った2人がパートナーになり、ペア対ペアのゲームになります。



ブリッジでは、ジョーカーを除く 52 枚のトランプを使用しますが、「トランプ」という呼び名は切り札となる特別なカードを意味し、普通のカードは「カード」と呼びます。

カードをシャッフルし、13枚ずつ右写真のカード・ケース（ブリッジでは「ボード」とよばれています。



以下「ボード」) の所定の場所に収めます。

ボードは1番からゲームの回数分あり、それぞれシャッフルのされ方が異なります。上記の写真は20回目のゲームに使用するボードなので、「20」の番号が振られています。なお、写真では一部のカードが表向きに入れられていますが、ゲーム開始時は、全て裏向きの状態です。

1つのテーブルでゲームが終了すると、各13枚のカードが、それぞれボード内NEWSの元の場所に戻され、別のテーブルでも、同じカード条件でゲームが行われます。

実際の大会では、テーブルが参加ペア数に応じて20~40数卓あり、卓数分のボードが準備されます。全てのボードは全テーブルへ回され、各チーム・ペアがそれぞれのボード番号のゲーム（同じ条件下）で、取得した点数の合計を競います。1ゲームは平均7分前後とかなり速いスピードで展開され、約4時間集中して行われるそうです。

最終的に、ボード毎に、どのテーブルのどのペア（2ペア/テーブル）が最も得点が高かったかが集計され、ペア毎の順位が出ます。1つのテーブルでカード・ゲームを戦いながら、実際は他のテーブルのペアとも順位争いを繰り広げている。何とも壮大な広がりを感じさせるゲームです。

《ゲームの進め方》

ゲームはまず「どんな条件で勝ちに行くか」を宣言するところから始まります。

配られた持ち札を見て、オークションと呼ばれる競い合いで最終的な条件（これをコントラクトと言います）

が決まり、そこからパートナーとの協力のもとゲームが始まります。条件を宣言したペアは、点数的に勝ったとしても宣言した条件以下だった場合は、「マイナス点」になってしまいます。

1 ゲーム毎の勝敗を数えやすくするために、勝ったカードを縦にし、負けたカードは横にして並べておきます。

詳細なルールは、「コントラクト・ブリッジの遊び方・ルール」を紹介したYouTubeなどで確認されることをお勧めいたします。



解説動画には、特殊な用語も多く、戦略も多種多様出てくるので、自分にもブリッジが「理解できるのか」「参加できるのか」と不安に思うかもしれません。しかし、どんな世界でも初めは皆「赤ちゃん」です。「案ずるより産むが易し」 先ずはテーブルに着いてやってみましょう。





少し詳しく見てみましょう

ゲームの流れは、Dealer（写真では W）が、Auction を開始します。

1つのマークで13枚あるので、自分の13枚の持ち札の中で、自分の向いに座るパートナーと合わせて、1つのマークで6トリック+1以上の条件で、勝てる可能性が出ます。まずはAuctionでそれぞれのゲームで、自分の持ち札によって、より優れた条件を決められるかが、勝負の分かれ目になります。♣→♦→♥→♠の順で強くなるので、「♠+4」のトリックは「2人で10（6+4）トリック以上勝てる」という Contract（契約）を締結することになり、集められないと「ダウン（負け）」となります。

Auction の段階で、「♦+2」を出した後、その隣りの人（ペア）が「♠+4」を出すと、そちらが高いコントラクトとなり、そこでゲームが、「♠+4」を宣言した人 Declarer の左隣りの人から時計回りに始まります。

Declarer の正面のパートナーは Dummy と呼ばれ、最初の自分の番の時、自分の手札をオープンして、持ち札を全員に見せます。

同じマークの中では、2が一番弱い数字で、絵札が得点カードで、ジャック 11（1点）→クイーン 12（2点）→キング 13（3点）→エース A（4点）で、エース A が最も強いカードです。

Dummy は、Declarer の意図に従って、カードを出していきません。

13回のゲーム（トリック）において、前の人と同じマークのカードが手元がない場合には、違うマークのカードを出してもよいのですが、その時点でそのトリックでは負けとなります。

最初のカードを出した人と同じカードのマークで、最も強い番号を出した人が勝ちとなります。

2. 非日常を楽しむ

フィリピンでは、愛好家の定例会が月6回開催されており、メンバーの中には、フィリピン人の競技パートナーとチームを組んで、そうした大会に参加されている方もいらっしゃいますが、現状は、同好会メンバーで週に一度、水曜日の午前中にブリッジを楽しく学びながらプレイされています。

ブリッジ歴半年の方から、10年以上の方までいらっしゃいましたが、ほとんどのメンバーが、このマニラの同好会でブリッジを始められたそうです。1ゲーム終わるたびに、みなさんでゲームを振り返り、カードの出し方などを熱心に研究されている姿が印象的でした。

メンバーの皆さんに、「本当は午後や夜、くつろいだ気分でカード・ゲームを楽しみたいのでは？」とお伺いしたところ、家庭を守る奥様方にとっては、「平日午前のこの時間帯が唯一集中して楽しめる時間帯」ということで、水曜日の午前中に活動されているとのことでした。


自分の手持ちカードから、パートナーや相手のペアの手持ちカードを想像しながら、切り札を決めていくには、雑念を払い、本当に集中して頭を使うことが必要です。そうした日常とは違った体験が出来るのが良いのかもしれません。



まずは、先輩メンバーとペアを組み、一緒にテーブルを囲むところから始めてみては如何でしょうか。きっと素敵なお仲間とすんなり打ち解け、一緒に頭の体操を楽しむことが出来ると思います。

是非、水曜日の午前中、マニラ日本人会 CLUB ROOM を覗いてみて下さい。

詳細・お問い合わせ ブリッジ同好会

ブリッジを一緒に楽しんで下さるお仲間を募集中です！	
 募集は随時おこなっており、見学も可能です。どうぞお気軽にお問い合わせください。	
日 時	毎週水曜日 AM 9～11 時
場 所	マニラ日本人会 (Salcedo Village Trident Tower 22 階 CLUB ROOM)
お問合せ	詳細はマニラ日本人会事務局までお問合せ下さい。 Tel: 8810-7909 / 8815-3559 http:// jami.ph/

